朝鮮豆知識

4

軍　事

朝鮮・平壌

チュチェ105(2016)

朝鮮豆知識
4
軍 事

朝鮮・平壌
外国文出版社
チュチェ105(2016)年

目　　次

1. 朝鮮の軍事思想と理論はどんなものですか？

朝鮮の軍事思想と理論は一口に言って、社会主義朝鮮の始祖金日成(キムイルソン)主席（1912～1994）によって創始されたチュチェ思想と先軍思想を具現した人間中心の軍事思想と理論です。

朝鮮の軍事思想と理論には、さまざまな形態の革命戦争の遂行と軍建設及び軍事活動上の指針とすべき原則的諸問題が解明され、現代戦争の特性と国の実情に即して敵軍の数的・技術的優勢を政治的・思想的優位と戦略戦術的優勢により撃破するための理論ならびに方法が全面的に解き明かされています。

朝鮮の軍事思想と理論は、朝鮮革命の要求と国の具体的な実情に即して、朝鮮人民自身の力で自衛的軍事力を強固に築くための主体的な軍事思想・理論であり、現代の軍建設と軍事活動上のすべての理論的及び実践的問題に全面的かつ科学的な解答を与える百科全書的な軍事思想・理論です。

朝鮮の軍隊と人民が、数的・技術的に絶対に優勢な米日両帝国主義との熾烈な戦いと、数十年間絶え間なく続いたアメリカとの軍事的対決で百戦百勝し

えたのは、自らの独創的な軍事思想・理論を指針としていることにあります。

2．朝鮮の基本的軍事路線はどんなものですか？

朝鮮の基本的軍事路線は、全軍幹部化、全軍現代化、全人民武装化、全国土要塞化を実現して、国防力を鉄壁の如く固めることです。

3．全軍幹部化とはどんなことですか？

全軍幹部化とは、全人民軍軍人を政治的、思想的に、軍事技術的に鍛え上げて、有事には兵士から将官に至るまで全軍人が一等級以上の高い軍務を十分に担当しうるよう準備させることです。

全軍幹部化がなれば、有事に、武装した全人民を軍事的に指導しうる指揮幹部を大々的に準備できるのです。

それに、人民軍の戦闘力がこのうえなく高まる結果、平時は一定数の常備軍をもって国防任務を遂行しつつ社会主義経済建設を促し、有事に際しては必要な兵力を急速に増強しながらも、軍隊の質的状態を高いレベルで確保できるのです。

全軍幹部化を果たすうえで重要なことは、すべての軍人を、いかに複雑な状況の中でも自己の軍事任務を立派に果たせるよう、政治的、思想的に、軍事技術的にしっかり準備させることです。

4．全軍現代化とはどんなことですか？

全軍現代化とは、人民軍を近代戦の要求に即した近代兵器と戦闘技術機材で武装させ、最新軍事科学技術に精通するようにさせることです。

全軍現代化で重要なことは、急速に向上する現代軍事科学技術を踏まえて、ひきつづき強力な兵器を作り出し、軍人の誰もが最新兵器を巧みに扱い、現代軍事科学技術を十分に身につけるようにすることです。

5．全人民武装化とはどんなことですか？

全人民武装化とは、労働者、農民をはじめすべての勤労者が片手にはハンマーと鎌を、片手には銃を持って社会主義建設を推し進め、敵が戦いを挑めば侵略者をたちどころに撃滅できるよう、人民を常時しっかり準備させるということです。

全人民武装化の実現上重要な問題は、全人民を政

治的、思想的に武装させたうえで軍事的にしっかり準備させることです。ここで特に重要なことは、全人民が軍事を熱心に学び、戦闘・政治訓練に積極的に参加することです。

朝鮮では、全人民の強固な政治的・思想的統一と強固な自立的民族経済に依拠する全人民武装化が立派に実現しています。

6. 全国土要塞化とはどんなことですか？

全国土要塞化とは、国の全域に鉄桶の防衛施設を構築して、いついかなる地帯へ敵軍が侵攻しても、これを一撃のもとに撃退しうるよう、全国土を軍事要塞に築き上げることです。

全国土を要塞化するには、国の全域を強固な防衛施設を持つ難攻不落の要塞に築き上げ、とりわけ軍事戦略上重要な地帯を鉄桶に固め、軍需工業を高いレベルに引き上げ、必要な物資の予備を蓄えることです。ひいては有事に際して全経済を戦時体制に切り替え、軍需工場をはじめ重要生産諸施設がいかに不利な状況の中でも生産を継続しうるよう、平時から準備しておくことです。

朝鮮では、強力な自立的民族経済の土台に依拠して全国土の要塞化が立派に実現しています。

7．武力建設の基本的原則は何ですか？

朝鮮において武力建設の基本的原則の重要な内容は、第一に、全軍に対する朝鮮労働党と領袖の唯一的指導を実現することであり、第二に、自衛的原則を貫くことであり、第三に、政治活動を先行させつつこれに軍事技術活動を正しく組み合わせることであり、第四に、武力建設で継承性を保障することです。

8．戦争に対する朝鮮の観点と態度はどんなものですか？

戦争に対する朝鮮の観点と態度はまず、自国の軍隊と人民の力に信をおき、革命戦争を自らの力で遂行するということです。

朝鮮の軍隊と人民は、外国の支援を受けなくとも自らの力で帝国主義侵略軍と堂々と対戦し、戦えば必ず勝つという確信と楽観に満ちています。

戦争に対する朝鮮の観点と態度はまた、敵軍とは

いつであれ一度は必ず戦うことになり、侵略軍が前後の見境なく襲来すれば、チュチェ朝鮮、英雄朝鮮の名誉をかけて決然と戦い、さんざんに打ち負かすということです。

朝鮮がいまだ国の統一を果たせず、敵対勢力が戦争挑発策動を続けている以上、このような観点と態度に徹するのは至極当然です。

戦争に対するこうした観点と態度に基づき、朝鮮では、軍人や人民の間で戦争恐怖症や厭戦思想、平和的気分など一切の不健全な要素を一掃して、戦争に対する政治思想的、軍事的及び物質的準備をしっかり整え、彼らが常に緊張した動員態勢を持して生活し、働くようにすることに深い関心を払っています。

9. 朝鮮の国防工業政策はどんなものですか？

朝鮮の国防工業政策で重要なことはまず、自力更生の原則で、自らの力で民族国防工業を建設することです。

日本の軍事占領（1905～1945）からの解放後、朝鮮には軍需工場の建設に必要な技術文書や設備、資材、資金のいずれもゼロの状態であったし、技術者

や技能工もいませんでした。けれども朝鮮はすべての困難を克服し、自力更生の原則で主体的な国防工業政策を貫くことによって、武力建設に必要な軍事装備を外国に依存せず、自らの力で生産できるようになりました。

朝鮮の国防工業政策で重要なことは次に、近代的な国防工業を建設することです。

朝鮮では、軍事装備の国内需要を自力でまかない、自立性の強い国防工業を建設するとともに国防工業の近代化に大きな力を入れて、核兵器や戦略ロケットなどいかなる近代的軍事装備も思いのままに生産し、国防力を物質的、技術的に立派に支えています。

10. 経済建設と国防建設の並進路線とはどんなものですか？

1962年12月の朝鮮労働党中央委員会第４期第５回総会は、帝国主義の侵略から革命の獲得物を揺るぎなく守り、社会主義建設を成功裏に推し進めるべく、経済建設と国防建設の並進路線を打ち出しました。

当時アメリカは、キューバ共和国の絞殺をはかってカリブ海の危機をつくり出し、ベトナムでは戦争

をエスカレートさせていたばかりでなく、南朝鮮に侵略兵力をやむことなく増強することで朝鮮民主主義人民共和国への侵略準備に拍車をかけていました。そのため、朝鮮半島には再び戦争が勃発しかねない一触即発の情勢がかもし出されました。

こうした情勢を踏まえて、経済建設と国防建設の並進路線が提示されたのです。

経済建設と国防建設を並進させるというのは、経済建設と国防建設のどちらも弱めずにほぼ同じ比重で発展させるということです。

この路線は、社会主義経済建設と国防建設の結合問題を国防重視の原則で解決した独創的な路線であり、自力で革命の獲得物を守る問題と社会主義建設を勝利のうちに前進させる問題を共に解決できるようにした革命的な路線でした。

11. 先軍時代における経済建設路線とはどんなものですか？

先軍時代における経済建設路線は、国防工業の優先的発展を堅持しつつ同時に軽工業と農業を発展させることです。

先軍時代の経済建設路線の本質的内容の一つは、国防工業を優先的に発展させることです。

1990年代末、朝鮮は、「社会主義の終焉」を叫ぶ帝国主義連合勢力の極度の朝鮮圧殺攻勢に対処して、国防工業の強化発展に最大の力を振り向け、すべての活動を軍事先行の原則で推し進めて、社会主義を守り抜きました。

先軍時代の経済建設路線の本質的内容の今一つは、国防工業の優先的発展を堅持しつつ、同時に軽工業と農業の発展に力を入れて人民生活を画期的に向上させることです。

国防工業の優先的発展と並んで、同時に軽工業と農業の発展をはかる先軍時代の経済建設路線には、情勢がいかに厳しくても必ず社会主義強国を打ち立てて人民に幸せな物質・文化生活を享受させようとする、先軍政治の目的と社会主義経済建設本来の要求が具現されています。

12. 経済建設と核武力建設の並進路線とはどんなものですか？

2013年３月、朝鮮労働党中央委員会総会が打ち出

した経済建設と核武力建設の並進路線は、核武力の強化によって国防力を完璧に固めつつ経済建設により大きな力を入れることで、社会主義強国建設の偉業を完成させようという戦略的路線です。

経済建設と核武力建設の並進路線は、激変する情勢に対処する一時的な対応策ではなく、朝鮮革命の最高の利益からして恒久的に堅持すべき戦略的路線であり、金日成主席の経済建設と国防建設の並進路線並びに金正日（キムジョンイル）総書記の先軍時代の経済建設路線の立派な継承であり、深化発展です。

経済建設と核武力建設を並進させる戦略的路線には、自主の道、先軍の道、社会主義の道に沿ってチュチェの革命偉業の最後の勝利を必ず成就するという、朝鮮の軍隊と人民の揺るがぬ信念と意志がこもっています。

13. 朝鮮の軍指揮体系はどんなものですか？

朝鮮の軍指揮体系は何よりもまず、全軍が最高司令官の唯一的指導のもとに一体となって動く革命的な規律と秩序の体系です。これは本質上、全軍における領袖の唯一的指導体系、朝鮮労働党の唯一的指

導体系の確立を意味します。
　朝鮮の軍指揮体系は次に、軍事指揮官の命令・指示によって軍隊が動く命令・指揮体系です。
　朝鮮における軍事指揮官の命令・指揮体系は、朝鮮労働党の唯一的指導を実現するための指揮体系であり、また、党委員会の集団指導のもとに動く指揮体系であり、同時に参謀部を通した軍事指揮官の唯一的指揮を実現する体系です。

14．銃剣重視・軍事重視思想とはどんなものですか？

　銃剣重視・軍事重視思想の本質は一口に言って、革命は銃剣すなわち軍隊をもって行わなければならないということです。
　朝鮮では、つとに革命の道を切り開いた初期に、武装した敵を打倒して祖国を解放する唯一の道はひとえに武装闘争を展開することであるとの思想をもってまず軍隊を作り、祖国の解放後、朝鮮労働党を創立し、国家を創建しました。
　それに、新朝鮮の建設と社会主義建設の行程でも一貫して銃剣重視・軍事重視の思想と路線を堅持し、

人民軍を不敗の強兵に作り上げるなど、国防力の強化に最善を尽くし、軍に依拠して革命と建設全般を強力に推し進めました。

15. 軍事先行の原則とはどんなものですか？

軍事先行の原則とは一口に言って、革命と建設を進めるうえで、軍事を他のすべての活動に確実に先行させ、そこに最大の力を入れるということです。

軍事先行の原則はまず、軍事を他のすべての活動に確実に先行させる原則です。

革命闘争と建設事業を進める過程にはさまざまの活動問題が持ち上がるが、それらすべての活動の中で軍事を最重視し、先行させるべきだとするのがほかならぬ軍事先行の原則の本質的内容の一つです。

軍事先行の原則はまた、軍事活動による成果を踏まえて、革命と建設の他の分野を統一的かつ均衡的に発展させていくことを求める原則です。

軍事先行の原則は軍事分野にのみ力を入れるべきだとする原則ではありません。この原則は、強力な軍事力に基づいて経済と文化など革命と建設のすべての分野を発展させていくことで、人民のすべての

夢と理想を実現していく原則です。

16. 朝鮮の武力はどのように構成されているのですか？

朝鮮の武力は正規軍と民間武力からなっています。

正規軍は朝鮮人民軍と朝鮮人民内務軍です。

朝鮮の正規軍は、軍事面では、各軍種・兵種をすべて備え、近代的武装で装備されており、現代軍事科学技術を具備した軍隊、近代戦の要求に即して編制された組織体系と整然たる軍指揮体系を持ち、軍のすべての活動と生活が高度に正規化、規範化された軍隊であり、物質的保障の面では、自らの国防工業と経済力に依拠して兵器その他各種の軍需物資と給養物資の供給を受ける常備的武装組織です。

正規軍は朝鮮の武力の基本をなし、祖国の防衛で主導的な役割を果たしています。

民間武力には、労農赤衛軍と赤の青年近衛隊があります。

朝鮮の民間武力は、労働者、農民などの勤労者と青年学生によって組織された、非正規・非常備の武力です。

朝鮮の民間武力は正規軍を補充し、助けて作戦・戦闘任務を遂行します。職場で働きながら必要な場合に軍事的任務を果たす勤労人民の自発的な武装組織であり、専門的な軍事組織とは異なり、生産単位と地域単位を基本にして組織され、活動します。

17. 朝鮮人民軍はどんな武装力ですか？

朝鮮人民軍は、金日成主席の指導のもと、1932年４月25日に創建され、1948年2月8日、正規軍に発展した朝鮮労働党の革命的武力です。

朝鮮人民軍は、抗日武装闘争の栄えある伝統を継承した革命的武力であり、勤労人民の子女によって組織された人民の軍隊です。

朝鮮人民軍は、朝鮮民族の完全な解放と朝鮮の統一独立のために、国家と人民の安全のために帝国主義侵略勢力に対抗して戦う革命軍隊であり、朝鮮において社会主義建設の勝利をもたらすために、全世界的版図で一切の搾取制度をなくし、人類の自主偉業を達成するために戦う軍隊です。

金日成主席と金正日総書記によって強化、発展させられてきた朝鮮人民軍は今日、金正恩（キムジョンウン）委員長

の指導のもと、いかなる侵略者をも一撃のもと掃滅しうる近代的な攻撃手段と防御手段をすべて備えた、無敵の精鋭軍としての威容を誇っています。

18. 朝鮮人民内務軍はどんな武装力ですか？

朝鮮労働党の革命的武力の一構成部分としての朝鮮人民内務軍は、朝鮮労働党と領袖を防衛し、内外の敵の一切の策動から社会主義祖国と革命の獲得物を守り、人民の生命と安全を守ることを使命としています。

19. 労農赤衛軍はどんな武装力ですか？

労農赤衛軍は朝鮮の非常備の民間武力で、社会主義建設に参加している労働者、農民などの勤労者によって組織された自発的な武装組織です。

金日成主席の発意と指導のもと、1959年1月に創建されました。

片手には銃を、片手には鎌とハンマーを持って敵の侵攻から社会主義祖国と革命の獲得物を揺るぎなく守り、社会主義建設を進める使命を担った労農赤衛軍は、朝鮮の革命的武力の重要な構成部

分です。
　全国各地に整然たる軍事組織指揮体系を備えた労農赤衛軍は、政治的、思想的にしっかり準備されているばかりでなく、帝国主義者が地上、海上、空中からいつどんな形態で侵入して来ようとも十分に撃破しうるよう、軍事技術的にしっかり準備されています。

20．赤の青年近衛隊はどんな武力ですか？

　赤の青年近衛隊は学生青年の自発的な半軍事組織で、学習を本務としながら祖国防衛の任務も遂行する朝鮮の民間武力です。
　金日成主席の発意と指導のもと、1970年9月に創建されました。
　赤の青年近衛隊の重要な任務は、侵略者が戦争を引き起こした場合、労農赤衛軍と共に後方を強固に防衛することにあります。
　赤の青年近衛隊の創建と強化発展により、朝鮮労働党の全人民武装化方針はより全面的に実現し、朝鮮の自衛的国防力は一段と強力に固められました。

21．朝鮮人民軍の軍種と兵種はどのように構成されているのですか？

朝鮮人民軍の軍種には、陸軍、海軍、航空及び対航空軍、戦略軍があります。

朝鮮人民軍の陸軍には、歩兵、砲兵、戦車兵、特殊兵種をはじめ諸種の兵種があります。

朝鮮人民軍の海軍には、水上艦船と水中艦船の兵種があります。

朝鮮人民軍の航空及び対航空軍には、追撃機飛行隊、爆撃機飛行隊、ヘリコプター飛行隊をはじめ諸種の兵種があります。

22．朝鮮では人民軍をどのように強化発展させているのですか？

朝鮮では、朝鮮人民軍を政治的、思想的に、軍事技術的に、身体的に強化発展させることに大きな力を入れています。

そのために、朝鮮では人民軍に対する朝鮮労働党の指導を強化し、政治・思想活動と軍事技術活動を密接に組み合わせ、武力建設で継承性を保持することに深い関心を払っています。

こうした結果、朝鮮人民軍は朝鮮労働党の指導、最高司令官の指導にこのうえなく忠実で、革命への信念と革命的軍人精神が充満し、近代的武力装備を完璧に具備し、鉄の軍事規律が隙なく確立した最精鋭革命強兵に強化されました。

23. 赤旗中隊運動とはどんな運動ですか？

赤旗中隊運動は、朝鮮人民軍内で進められている大衆的革新運動です。

赤旗中隊運動は、すべての軍人を朝鮮労働党と領袖に無限に忠実たらしめるよう教育して、人民軍を一つに固く結びついた集団に仕上げ、「一当百」の武力に強化発展させる大衆的革新運動です。

赤旗中隊運動の炎は人民軍内のすべての部門、すべての単位、すべての軍営へと急速に拡大して、２重、３重赤旗中隊、赤旗大隊、赤旗連隊運動へと発展しています。

24.「一当百」のスローガンはどんなスローガンですか？

「一当百」のスローガンは、金日成主席が1963年2

月、朝鮮人民軍の一部隊を現地指導した際、人民軍に示した戦闘的スローガンです。

このスローガンには、人民軍を政治的、思想的に、軍事技術的にしっかり準備させ、すべての軍人を1人が100人を相手取って戦えるよう無敵の戦士に鍛え上げ、軍隊の幹部化と近代化を立派に実現することにより、兵員数を増やさずとも国の自衛的防衛力を揺るぎなく固めていくことを旨とする軍事思想が具現されています。

このスローガンを高く掲げて、「一当百」の精悍な戦士に徹底的に準備していくことで、朝鮮人民軍は不敗の戦闘隊伍に強化されました。

25. 政治・思想強兵の建設とはどんなことですか？

政治・思想強兵を建設するというのは、人民軍を領袖決死擁護精神を核とする思想と信念の強固な集団に作り上げ、思想を軍の建設と軍事活動の有力な武器として堅持し、精神力の威力をもって百戦百勝を遂げる、思想と信念の強兵に作り上げるということです。

朝鮮では、政治・思想強兵の建設を軍事力強化の

重要な路線の一つとして打ち出し、人民軍をひたすら最高司令官を絶対的に信頼して従い、生命を賭して守る領袖決死擁護の強兵、いかなる強敵をも思想の威力で撃破しうる無敵必勝の強兵として建設しています。

26. 道徳強兵の建設とはどんなことですか？

道徳強兵を建設するというのは、人民軍を朝鮮労働党と領袖への純な道義心を持する革命軍隊、道徳的に完成され、道徳の力で百戦百勝を続ける強兵に作り上げるということです。

朝鮮では、道徳強兵の建設を軍事力強化の重要な路線の一つとして打ち出し、人民軍を朝鮮労働党と領袖を清い良心と道義心をもって奉じ、同志愛、戦友愛に燃える戦友部隊、道徳的に完成した革命軍隊として建設しています。

27. 人民軍の軍事技術的強化にはどのように力を入れているのですか？

人民軍を軍事技術的に強化する対策は、一つは、軍人を現代的軍事科学技術、百発百中の射撃術、巧

みな戦法を身につけた「一当百」の戦士に鍛えることであり、いま一つは、軍人を近代的な装備と戦闘技術機材で武装させることです。

　このためにまず、４大訓練原則と５大訓練方針にのっとりすべての部隊が戦闘・政治訓練に最大の力を入れて、呉仲洽（オ ジュンフプ）第７連隊称号獲得運動その他の大衆運動と射撃競技などを活発に行い、軍人たちを現代的軍事科学技術、百発百中の射撃術と巧妙な戦法を駆使しうる「一当百」の戦士に育て上げています。

　また、国の具体的な実情と抗日武装闘争、祖国解放戦争（朝鮮戦争）の経験を踏まえて軍事科学技術を不断に発達させ、先端武力装備の研究・開発に大きな力を入れるとともに、自立的かつ近代的な国防工業に依拠して武装力の強化に必要な兵器と戦闘技術機材を常に十分に生産、供給することによって、軍隊を軍事技術的に強化する活動を高い水準で行っています。

28．軍人の身体的準備はどのように行われているのですか？

　朝鮮では、軍人の身体的準備をしっかり行うこと

を軍隊の戦闘力を高める重要な活動の一つとし、軍人たちを強健な体力の持ち主に鍛え上げることに大きな力を入れています。

戦闘訓練と国防体育、大衆スポーツ活動などを通じて、軍人たちの身体鍛錬は不断に強化されています。

29. 朝鮮人民軍の軍紀はどんなものですか？

朝鮮人民軍の軍紀は、自覚的かつ革命的な軍紀です。

朝鮮では、革命軍隊の本性と革命武力建設の合法則的要求に即した軍事規定と教範を制定し、それに準じて軍務生活を正規化、規範化し、軍人の自覚に基づく鉄の軍紀を確立しています。

こうして、人民軍内では外国の軍隊に普通見られるような気合や営倉のような強圧的な方法による軍律ではなく、軍人教育と彼らの自覚に依拠した軍紀が確立しているのです。

30. 軍民一致思想とはどんなものですか？

軍民一致思想とは、革命的軍人精神に基づく軍隊と人民の思想と闘争気風の一致を指す思想です。言い換えれば、人民軍の革命的軍人精神を社会全般に

一般化し、社会の全構成員がこの精神に立脚して生き、働くようにするということです。

朝鮮では、軍隊と人民の思想と闘争気風の一致を確立することで、領袖を中心とする朝鮮労働党と軍隊と人民の一心団結を全面的に固め、そのうえで国力全般を揺るぎなく固めています。

軍隊と人民の思想と闘争気風の一致をもって固く結びついた朝鮮社会の一心団結は、核兵器をもってしても打ち崩せない不抜の団結です。

31. 抗日武装闘争路線はどのように打ち出されたのですか？

抗日武装闘争路線は、金日成主席の指導のもと1930年6月30日～7月2日に行われた、中国東北部卡倫における共青及び反帝青年同盟の幹部会議で打ち出されました。

金日成主席は卡倫会議で、日本帝国主義に反対するための組織的な武装闘争展開路線を提示しました。

主席は、日本帝国主義に反対する武装闘争の展開を反日民族解放闘争の基本路線、朝鮮革命家の第一の課題であるとして、銃剣をもって国の独立と民族

の解放を成就すべきであるとする先軍革命路線を明示しました。

32．抗日武装闘争はどのように開始されたのですか？

抗日武装闘争は、金日成主席の指導のもと1931年12月、中国東北部の延吉県明月溝で開かれた党及び共青幹部会議において、日本帝国主義に反対する組織的武装闘争を至急組織、展開すべきであるとする方針が提示されたことをもって開始されました。

会議の席上、主席は、全朝鮮民族は祖国の解放をめざす聖戦に総決起すべきであると呼びかけ、遊撃戦の形式を基本とする抗日武装闘争を組織、展開する問題、常備的な革命武力である反日人民遊撃隊を組織する問題、遊撃根拠地を創設する問題、武装闘争の大衆的基盤を固める問題、中国人反日部隊との連合戦線を形成する問題をはじめ戦略戦術的諸原則を示しました。

会議では、「武装には武装で、反革命的暴力には革命的暴力で！」というスローガンのもと、抗日戦争が宣言されました。

33. 反日人民遊撃隊はいつ創建されたのですか？

反日人民遊撃隊は、金日成主席の指導のもと1932年4月25日、中国東北部の安図県小沙河土器店谷の台地で創建されました。

反日人民遊撃隊は、日本帝国主義侵略者を駆逐して民族の解放を成就し、ひいては一切の階級的抑圧と搾取を一掃し、社会主義を建設することを目的とする革命武力でした。

反日人民遊撃隊の創建により、先軍革命の中核勢力、真の人民の武力が誕生し、朝鮮革命全般を先軍の原則で強力に展開していけるようになりました。まさにこの時から金日成主席の先軍革命指導が開始されたのです。

反日人民遊撃隊はその後朝鮮人民革命軍に改編（1934.3）され、祖国の解放後には正規の革命武力である朝鮮人民軍に発展（1948.2）しました。

朝鮮では、反日人民遊撃隊が創建された4月25日を建軍節として意義深く祝っています。

34. 抗日武装闘争時期の主要な軍事作戦にはどんなものがあるのですか？

抗日武装闘争は、遊撃戦を基本的な形式とする諸

軍事作戦によって輝かしい勝利を収めました。

朝鮮人民革命軍の主要軍事作戦としては、遊撃区防衛作戦、広範な地域への進出作戦、白頭（ペクトウ）山地区への進出作戦、普天堡（ボチョンボ）戦闘を中心とする国内進攻作戦、苦難の行軍、茂山（ムサン）地区進攻作戦、小部隊作戦、最後の攻撃作戦などを挙げることができます。

35. 大部隊による国内進攻作戦はどんな作戦ですか？

大部隊による国内進攻作戦は、金日成主席の指揮のもとに1937年半ば、朝鮮人民革命軍の大部隊が国内に進出し、日本帝国主義に大きな政治的・軍事的打撃を与えた作戦です。

作戦期間、朝鮮人民革命軍は普天堡戦闘、ロ隅水山戦闘、間三峰戦闘でそれぞれ勝利をおさめ、日本帝国主義の「無敵皇軍」の神話を粉砕することで朝鮮人民革命軍の威力を誇示し、人民に日本帝国主義侵略者と戦えば必ず勝利するという確信を抱かせました。

36. 敵背撹乱作戦はどんな作戦ですか？

敵背撹乱作戦は、1937年7月の中日戦争勃発に対処して、

朝鮮人民革命軍が鴨緑(アムロク)江と豆満(トウマン)江沿岸一帯をはじめとする広範な地域で機動的な流動作戦を展開し、日本帝国主義侵略軍の背後を不断に撹乱、打撃した作戦です。

作戦中、朝鮮人民革命軍の諸部隊は、十三道溝の西崗城襲撃戦闘、撫松—西崗伏兵戦、輝南県城進攻戦闘など数々の戦闘を果敢に展開し、敵に甚大な打撃を与えました。

37. 茂山地区進攻作戦はどんな作戦ですか？

茂山地区進攻作戦は、1939年春、朝鮮人民革命軍が金日成主席の指揮のもと、積極的な反撃戦をもって敵を連打しつつ再び祖国の地に進撃して日本帝国主義に大きな政治的・軍事的打撃を与えた作戦です。

作戦期間、朝鮮人民革命軍は十五道溝戦闘、半截溝戦闘、大紅丹(テホンダン)戦闘などの諸戦闘で敵に甚大な政治的・軍事的打撃を加え、朝鮮人民革命軍の存在と威力を今一度内外に誇示しました。

38. 大部隊旋回作戦はどんな作戦ですか？

大部隊旋回作戦は、金日成主席の指揮のもと、朝

鮮人民革命軍の主力部隊が1939年秋から1940年春にかけて、白頭山東北部の広大な地域を不断に旋回しながら展開した作戦です。

大部隊旋回作戦は密営（秘密根拠地）を中心にして繰り広げた従来の軍事・政治活動方式とは異なり、大部隊をもって所定の秘密ルートに沿って不断に旋回しながらさまざまの戦法を駆使して、敵軍を打撃し掃滅する流動作戦でした。

作戦期間、朝鮮人民革命軍は六棵松戦闘、夾信子戦闘、大馬鹿溝戦闘、紅旗河戦闘など多くの戦闘を勝利のうちに進めて、人民革命軍の威容を今一度誇示し、人民に祖国解放の曙光を抱かせました。

39. 小部隊作戦はどんな作戦ですか？

小部隊作戦は、1940年8月から朝鮮人民革命軍の小部隊とグループが中国東北部の広大な地域と国内深くでさまざまの軍事・政治活動を活発に繰り広げた作戦です。

この期間、朝鮮人民革命軍の小部隊とグループは広範な地域でさまざまの軍事・政治活動を展開し、その中で人民革命軍の兵力を保存、蓄積し、祖国解

放の大事を迎える準備を着々と進めていきました。

40．祖国解放３大路線とは何ですか？

祖国解放３大路線は、朝鮮人民自身の力で祖国解放偉業を果たすための対日最終作戦方向を明示した路線です。

この路線は、金日成主席の指導のもと1943年2月下旬、咸鏡(ハムギョン)南道新興(シンフン)郡西谷(ソゴク)里トゥム峰密営で開かれた朝鮮人民革命軍の指揮官、小部隊・グループ及び革命組織責任者会議で示されました。

祖国解放３大路線は、第一に、朝鮮人民革命軍の総攻撃によって日本帝国主義侵略軍に殲滅的な打撃を与えることであり、第二に、朝鮮人民革命軍の総攻撃に呼応して全人民的蜂起を起こし日本帝国主義の滅亡を早めることであり、第三に、朝鮮人民革命軍の総攻撃と組み合わせて全民抗争諸組織の敵背連合作戦を展開することです。

41．抗日武装闘争の時期に創造された主な戦法はどんなものですか？

抗日武装闘争の時期、朝鮮人民革命軍は襲撃戦、

伏兵戦、敵背打撃戦（敵中撹乱戦）、誘引戦、奇襲戦、遠見戦術、一行千里戦術など奇妙な戦法を数限りなく編み出し、積極的に駆使することで、敵の数的・技術的優勢を政治的・思想的優勢並びに戦略戦術的威力をもって打ち破りました。

42．抗日武装闘争の時期に行った主な戦いにはどんなものがあるのですか？

抗日武装闘争の時期、朝鮮人民革命軍は大小さまざまの戦いを行い、敵に強力な政治的・軍事的打撃を加え、人民に革命勝利の確信を抱かせました。

主な戦いとしては、小営子嶺戦闘、小汪清遊撃区防衛戦闘、東寧県城戦闘、撫松県城戦闘、西崗戦闘、黒瞎子溝入口での戦闘、紅頭山戦闘、鯉明水戦闘、普天堡戦闘、間三峰戦闘、大紅丹戦闘、玉石洞戦闘、紅旗河戦闘、大沙河付近の戦闘、百日坪戦闘、大沙河—大醤缸戦闘などがあります。

43．小汪清遊撃区防衛戦闘はどんな戦いですか？

小汪清遊撃区防衛戦闘は、金日成主席の指揮のもと、遊撃隊と遊撃区の人民が日本帝国主義侵略軍の

大々的な「討伐」から小汪清遊撃区を死守すべく展開した戦いです。

　小汪清遊撃区防衛戦闘は、1933年初めから翌年２月まで数度にわたり行われました。

　小汪清遊撃区の防衛者たちは全面的な防御陣を敷き、波状式に執拗に襲来する敵軍を誘引・欺瞞戦術、待ち伏せ、狙撃、敵宿営地襲撃、敵背撹乱など千変万化の戦法をもって受け身に追いやり、殲滅的打撃を加えて遊撃区を死守しました。

　小汪清遊撃区防衛戦闘の勝利は、金日成主席の独創的な遊撃戦法と戦術の輝かしい勝利であり、遊撃区に確立された全人民的防衛システムの威力を誇示するものでした。

44．普天堡戦闘はどんな戦いですか？

　普天堡戦闘は、金日成主席の指揮する朝鮮人民革命軍の主力部隊が朝鮮北辺の両江（リャンガン）道普天郡普天邑（当時は咸鏡（ハムギョン）南道恵山（ヘサン）郡普天面普天邑）を襲撃した戦いです。

　普天堡戦闘は、1937年6月4日の夜10時、金日成主席が上げた一発の銃声を合図にして開始されました。

万端の戦闘準備を整えて待機していた朝鮮人民革命軍の隊員たちは、勇敢かつ敏捷な行動をもって警察官駐在所、面事務所をはじめとする日本帝国主義の暴圧機構と統治機関をまたたくまに掃討し、建物を焼き払いました。

普天堡の夜空に火の手が激しく燃え上がる中、政治工作員たちは町中に布告と祖国光復会10大綱領その他の檄文やビラを撒き、政治扇動を繰り広げました。

住民たちは「金日成将軍万歳！」「朝鮮独立万歳！」の歓声をもって朝鮮人民革命軍部隊を熱烈に歓迎しました。

金日成主席は、熱狂的に歓呼する住民たちの前で祖国の解放をめざして力強く戦おうと励ます演説を行いました。

普天堡戦闘の勝利は、日本帝国主義侵略者に甚大な政治的・軍事的打撃を与え、彼らの植民地支配体制を根底から揺り動かし、人民には祖国解放の確信を抱かせ、反日闘争へと力強く奮い立たせました。その勝利はまた、国の独立と自由・正義を求めてたたかう世界の革命的人民の反帝反ファシズム闘争にも大きな励ましとなりました。

当時、世界の国々では、「北部朝鮮に遊撃隊進出」「朝鮮の国境で遊撃隊活躍」などの見出しで、朝鮮人民革命軍の国内進攻作戦の勝利を広く報じました。

45．間三峰戦闘はどんな戦いですか？

間三峰戦闘は、金日成主席の指揮のもと、朝鮮人民革命軍の諸部隊が1937年6月30日、間三峰において敵の大部隊を掃滅した戦いです。

普天堡戦闘で甚大な打撃をこうむった日本帝国主義は大部隊をもって朝鮮人民革命軍を追撃しました。

間三峰界線に進出した朝鮮人民革命軍の諸部隊は、金日成主席の指揮のもと、追撃してくる敵軍を待ち構えました。

6月30日午前８時頃、敵軍は濃霧に乗じて、朝鮮人民革命軍が占めている界線に押し寄せました。

朝鮮人民革命軍の諸部隊は敵兵の接近を待って不意の集中射撃を加え、容赦なく叩きました。正面防御区分隊は、敵兵を峡谷に追い込んで強打を加え、両翼の部隊は突撃戦をもって敵軍を右往左往させました。生き残った敵兵は、日が暮れると闇にまぎれて逃げ去りました。

間三峰戦闘の勝利は、日本帝国主義侵略者に甚大な軍事的・政治的打撃を与えて朝鮮人民革命軍の威力を今一度誇示し、国内進攻作戦の勝利を一段と固めることで、人民に革命は必ずや勝利するとの確信をより強く抱かせました。

46. 苦難の行軍はどんな行軍ですか？

苦難の行軍は、金日成主席が率いる朝鮮人民革命軍の主力部隊が、1938年12月上旬から翌年３月にかけて、折り重なる困難とたたかいながら中国東北部の南牌子から鴨緑江沿岸の国境一帯に進出した歴史的な行軍です。

苦難の行軍は、昼夜を分かたぬ血戦にもくじけず酷寒の中を強行した100余日にわたる苛烈極まる行軍であり、想像を絶する千古にたぐいのない試練の行軍でした。

朝鮮人民革命軍は、苦難の行軍を輝かしい勝利をもって締めくくり、日本帝国主義侵略者に大きな打撃を与えて朝鮮人民革命軍の威力を世に誇示し、人民に革命勝利の確信を抱かせるなど、抗日武装闘争を中心とする朝鮮革命全般を高揚させる新局面を開

きました。

47．茂山地区戦闘はどんな戦いですか？

茂山地区戦闘は、金日成主席が指揮する朝鮮人民革命軍の主力部隊が、1939年5月、国内の茂山地区で行った戦いです。

歴史的な苦難の行軍を勝利のうちに締めくくり、再び祖国に進出した朝鮮人民革命軍は、大紅丹戦闘をはじめとする戦いで敵に殲滅的な打撃を加えて人民に必勝の信念と闘争意欲を呼び起こし、日本帝国主義侵略者に甚大な政治的・軍事的打撃をこうむらせました。

茂山地区戦闘は、普天堡戦闘と共に、朝鮮人民革命軍が国内で展開した諸軍事作戦のうち最も規模が大きく、意義の深い戦いでした。

48．祖国解放の総攻撃戦はどのように進められたのですか？

祖国解放の総攻撃戦は、1945年8月9日に開始されました。

金日成主席は朝鮮人民革命軍諸部隊に、祖国解放

総攻撃戦開始の命令を下しました。
命令を受けた朝鮮人民革命軍の諸部隊は総攻撃に移り、対日戦争に加わったソ連軍との協同をもって日本帝国主義侵略軍を撃滅掃討しつつ祖国への怒涛の進撃を行いました。
朝鮮人民革命軍の最後の攻撃作戦に呼応して、国内で活動していた人民革命軍小部隊・グループと政治工作員、人民武装部隊、武装蜂起組織、それに広範な人民が全国各地で敵背攪乱闘争を果敢に繰り広げるなど、進撃する人民革命軍部隊を支援しました。
朝鮮人民革命軍の猛烈な攻撃と積極的な全民抗争により決定的な打撃をこうむった日本帝国主義は、最後の攻撃作戦開始1週間目の8月15日、無条件降服しました。
こうして朝鮮解放の歴史的偉業は成就し、15星霜に及んだ抗日武装闘争は、朝鮮人民革命軍の輝かしい勝利をもって締めくくられました。

49．解放後、朝鮮における正規軍の建設はどのように進められたのですか？

解放後、朝鮮における正規軍の建設は、抗日武装

闘争で鍛錬、育成された抗日革命闘士たちを骨幹として、非正規的武力の朝鮮人民革命軍を近代的な正規軍である朝鮮人民軍に発展させる方向で、外国に依存することなく、自らの力で進められました。

　こうして、1948年2月8日、朝鮮人民革命軍は正規の革命武力である朝鮮人民軍に発展しました。

　解放後、朝鮮人民革命軍が正規の革命武力である朝鮮人民軍に発展したのは、金日成主席によって創始されたチュチェ思想、先軍思想とこれに基づく先軍革命路線の今一つの輝かしい実りです。

50．平壌学院はどのような学校ですか？

　平壌（ピョンヤン）学院は、新朝鮮の建設と革命武力の建設に尽くす軍事・政治幹部の育成をはかって建てられた朝鮮最初の軍事・政治幹部養成機関でした。

　平壌学院は、金日成主席の指導のもと、1945年11月中旬に創設され、翌46年4月末、第1期卒業式が行われました。

51．中央保安幹部学校はどのような学校ですか？

　中央保安幹部学校は、正規軍の建設に必要な軍事

指揮官を養成する学校でした。

中央保安幹部学校は金日成主席の指導で1946年7月に開校し、翌47年10月下旬、第1期卒業式が行われました。

本校では歩兵、砲兵、工兵など兵種別の指揮官が総合的に養成されました。

52. 保安幹部訓練所はどのような部隊ですか？

保安幹部訓練所は、朝鮮における正規軍朝鮮人民軍の建設を準備して組織された最初の正規の軍部隊です。

金日成主席の指導のもと、1946年8月に組織された保安幹部訓練所は、平壌、价川（ケチョン）、羅南（ラナム）など各地に設けられ、その下に管下分所が組織され、さらにその下に大隊、中隊、小隊、分隊が編制されました。

保安幹部訓練所は労働者、農民など人民の子女で組織された真の人民の武装力であり、やがて創建される朝鮮人民軍の中核部隊でした。

53. 祖国解放戦争はどのように開始されたのですか？

朝鮮人民の祖国解放戦争は、アメリカ帝国主義が

1950年6月25日早暁、南朝鮮の李承晩（リスンマン）傀儡一味をして全面的武力侵攻に乗り出させたことで開始されました。

朝鮮戦争は、アメリカが創建（1948年9月9日）後2年にもならぬ朝鮮民主主義人民共和国を揺籃期に圧殺し、全朝鮮を植民地に、アジア大陸への侵略と世界制覇の野望を実現するための橋頭堡に仕立てる目的をもって引き起こした戦争でした。

朝鮮戦争は実際は1950年6月25日ではなく、それ以前に始められていました。

アメリカ帝国主義は早くも1947年から共和国北半部に対する武力挑発を不断に強行し、局地戦争を年々エスカレートさせていました。それが全面戦争に拡大しなかったのは、ひとえに朝鮮労働党と共和国政府の平和愛好的な忍耐強い努力があったからです。ところが、アメリカ帝国主義は朝鮮人民の平和愛好的な努力に全面戦争をもって応えました。

アメリカ帝国主義の侵略戦争開始により、朝鮮の軍隊と人民は、再び帝国主義者の植民地奴隷に転落するか、あるいは自主独立国の人民としての尊厳を守るかという岐路に立たされました。

朝鮮の軍隊と人民は、アメリカ帝国主義とその追

随勢力の武力侵攻に抗し、朝鮮の統一独立と自由、民主制度を死守するための祖国解放戦争に総決起しました。

54. 祖国解放戦争は幾つの戦略的段階を経たのですか？

祖国解放戦争は４つの戦略的段階を経て進められました。

55. 祖国解放戦争第１段階の戦略的方針はどんなものですか？

祖国解放戦争第１段階の戦略的方針は、敵の武力侵攻を挫折させて迅速に反撃へ移り、アメリカ帝国主義の大兵力が投入される前に高い機動力と連続的な打撃をもって敵の基本集団を短時日内に撃滅掃討して共和国南半部を解放することでした。

祖国解放戦争第１段階の期間は、1950年6月25日から9月15日まででした。

その間、朝鮮人民軍部隊は５回の作戦を連続的に進めました。

ソウル解放作戦、大田（テジョン）解放作戦、安東（アンドン）解放戦闘、

洛東江（ラクトン）渡河戦闘、注文津（チュムンジン）沖海戦など数々の作戦と戦いを進め、「常勝師団」を壮語する米第24歩兵師団をはじめ傀儡軍第２、第５、第７歩兵師団を壊滅させ、米第１騎兵師団と第25歩兵師団、傀儡軍第１、第３、第６、第８師団及び首都師団に甚大な損失を与えました。海軍は米極東艦隊に強力な打撃を加え、飛行隊は「空の要塞」を豪語する「Ｂ29」戦略爆撃機をはじめ多くの敵機を撃墜、撃破しました。

朝鮮人民軍は、戦争開始後わずか１カ月半余りの間に、南半部地域の90％以上と人口の92％以上を解放しました。

56. 祖国解放戦争第２段階の戦略的方針はどんなものですか？

祖国解放戦争第２段階の戦略的方針は、敵の進攻速度を最大限に遅延させつつ時間を稼いで人民軍の主力部隊を救出し、新たな後備部隊を編制して強力な反攻撃集団を形成し、計画的な後退を組織することでした。

1950年9月中旬に至り、戦いの形勢は急変して共和国には厳しい難局がかもしだされました。

朝鮮人民軍の反撃によって甚大な打撃をこうむり、朝鮮から完全に駆逐される運命に陥ったアメリカ帝国主義侵略者は、度重なる惨敗を挽回し、朝鮮侵略の目的をなんとしても達成すべく、太平洋方面の陸海空軍と地中海艦隊の一部、米本土の地上軍、それにイギリス、カナダ、トルコ、オーストラリア、タイ、フィリピン、フランス、ギリシア、ニュージーランド、コロンビアなど15の追随国の軍隊まで朝鮮戦争に引き入れ、大兵力による仁川(インチョン)上陸作戦を強行しました。こうして朝鮮の軍隊と人民は大きな危険にさらされ、やむなく戦略的な一時的後退を行わざるをえなくなりました。

祖国解放戦争第２段階の期間は、1950年9月16日から10月24日まででした。

その間、朝鮮人民軍諸部隊は、仁川―ソウル地区防御作戦、洛東江界線防御作戦、38度線界線とその以北地域における防御作戦、月尾(ウォルミ)島防御戦闘など数多くの作戦と戦闘を展開し、米第１、第9軍団と傀儡軍第１、第２軍団に甚大な打撃を加えることで、共和国北半部を一気に占領しようとした敵の「総攻勢」計画を破綻させる一方、第二戦線部隊の猛烈な敵

中活動をもって侵略軍に甚大な損失を与えました。

57. 祖国解放戦争第３段階の戦略的方針はどんなものですか？

祖国解放戦争第３段階の戦略的方針は、敵の攻撃を決定的に挫折させ、短時日のうちに反撃に移って敵軍を38度線の南側に押し戻し、絶えざる消耗戦をもって敵兵力を掃滅し弱化させる一方、戦争の最終的勝利を達成するための万端の準備を整えることでした。

祖国解放戦争第３段階の期間は、1950年10月25日から1951年6月10日まででした。

その間、朝鮮人民軍諸部隊は、５回にのぼる大がかりな作戦を相ついで展開しました。

清川（チョンチョン）江以北における反打撃戦、戦線東部における頑強な防御戦、清川江界線における敵軍包囲掃滅戦、長津（チャンジン）湖畔における敵集団包囲掃滅作戦、第二戦線部隊の猛烈な敵中撹乱作戦など数多くの作戦と戦いを展開し、米第１、第９、第10軍団、傀儡軍第１、第２、第３軍団に甚大な打撃を加えて、敵軍に一時占領されていた共和国北半部の全地域を解放し、敵

軍を38度線の南へ駆逐しました。

58．祖国解放戦争第４段階の戦略的方針はどんなものですか？

祖国解放戦争第４段階の戦略的方針は、積極的な陣地防御戦を繰り広げて、既に占めた界線を固く維持し、敵を不断に打撃掃滅する一方、時間を稼いで人民軍の戦闘力を一段と強化し、後方をさらに強く固めることで、戦争の最終的勝利に向けたすべての条件を整えることでした。

祖国解放戦争第4段階の期間は、1951年6月11日から1953年7月27日まででした。

その間、朝鮮人民軍部隊は、1951年夏期及び秋期防御作戦、1211高地防御戦闘、351高地攻撃戦闘をはじめ幾度もの防御作戦と戦闘を展開して、アメリカ帝国主義侵略者が停戦会談の舞台裏で強行した「夏期及び秋期攻勢」「絞殺作戦」「焦土化作戦」「新攻勢」、野蛮極まる細菌戦など数々の無謀な「攻勢」と侵略企図を粉砕して敵を甚大な政治的・軍事的惨敗へ追い込み、祖国解放戦争を偉大な勝利に導きました。

59. ソウル解放作戦はどんなものですか？

ソウル解放作戦は、祖国解放戦争第１段階第１次作戦時に、反撃に移った朝鮮人民軍連合部隊がソウルの解放をめざして展開した作戦です。

ソウル解放をめざす総攻撃戦は、1950年6月28日早暁５時に開始されました。

強力な砲撃の後、戦車部隊が突撃路を開き、歩兵連合部隊が敵軍を正面と両翼、背後から叩きました。怒涛の突撃をもって市街に進入した人民軍諸部隊は、敵の重要機関である「中央庁」「放送局」「陸軍本部」「憲兵司令部」「西大門（ソデムン）刑務所」「麻浦（マポ）刑務所」「中央電信局」「景武台」などを相ついで掌握しました。

「中央庁」の屋上に共和国の旗がはためき、6月28日11時30分、ソウルは完全に解放されました。敵の牙城ソウル市は開戦後わずか３日目にして解放されたのです。

朝鮮人民軍は、ソウル解放作戦で2万1000余名の敵兵を殺傷または捕虜にし、各種の砲、狙撃兵器、装甲車、自動車、航空機など大量の戦闘機材を破壊、鹵獲しました。

ソウル解放作戦の勝利は、金日成主席の作戦的構

想である即時反撃戦の輝かしい結実であり、主打撃方向の正しい選択、連続打撃と包囲掃滅、速い機動と迂回など、主席の卓越した戦略戦術と独創的な戦法を誇示した近代戦のすぐれた模範でした。

60．烏山戦闘はどんな戦いですか？

烏山(オサン)戦闘は、1950年7月5日、人民軍の戦車部隊と歩兵部隊が水原(スウォン)南側の界線烏山一帯で米地上軍の先遣隊を相手どり、殲滅した戦いです。

当時、米先遣隊は米第24歩兵師団第21連隊の第１大隊と１個野砲大隊からなり、「スミス支隊」あるいは「スミス特攻隊」（大隊長スミス中佐の名から）と呼ばれていました。先遣隊はこの日の早暁３時、烏山界線に陣を敷き、南進する人民軍の到来を今や遅しと待ち構えていました。

そんなところに、人民軍の一戦車区分隊が敵砲の一斉射撃をものともせず真っ向から突進し、他の戦車区分隊は迂回進撃により敵の野砲大隊を蹂躙して「スミス支隊」の歩兵を孤立させました。これを人民軍歩兵連隊が攻撃し、一気に包囲掃滅しました。

朝鮮人民軍諸区分隊の猛攻を前に、米第24歩兵師

団の先遣隊はあえなく壊滅しました。

61. 注文津沖海戦はどんな戦いですか？

注文津沖海戦は、祖国解放戦争第１段階第２次作戦のさなかに、朝鮮人民軍海軍第２魚雷艇隊が朝鮮東海の注文津沖で米海軍の大型艦を撃沈、撃破した戦いです。

1950年7月初め、朝鮮人民軍海軍第２魚雷艇隊は、注文津沖でわずか４隻の魚雷艇をもって「動く島」と豪語していた重巡洋艦「ボルティモ」（1万7300トン級）を撃沈し、ひきつづき軽巡洋艦（1万2000トン級）を撃破しました。これは世界の海戦史上たぐいのない大戦功です。

小さな魚雷艇をもって重巡洋艦を撃沈したのは、戦闘ではなく一つの奇跡でした。

62. 最初の空中戦はどのように行われたのですか？

祖国解放戦争の時、朝鮮人民軍の航空兵はプロペラ式航空機をもって米空軍のジェット機と対抗し、最初の空中戦から輝かしい勝利を収めました。

1950年7月初め、朝鮮人民軍の戦闘航空兵は、プロ

ペラ式航空機をもって米第５空軍管下のジェット航空隊と果敢に戦い、「B29」戦略爆撃機をはじめ敵機13機を撃墜し、10数機を撃破して世界空中戦史の１ページを飾りました。

63．大田解放作戦はどんな作戦ですか？

大田解放作戦は、祖国解放戦争第１段階第３次作戦期間に、朝鮮人民軍連合部隊が大田市を解放するために展開した作戦です。

金日成主席は、短時日内に大田地域に包囲陣を敷き、包囲した敵軍を迅速に掃滅する大田解放作戦方針を打ち出しました。

主席の作戦的構想にのっとり、朝鮮人民軍連合部隊は迅速な機動と奇襲攻撃をもって大田の包囲網形成を完了しました。この時、朝鮮人民軍の一部隊は一夜のうちに40余キロの険しい山道を強行軍して、敵の退路を遮断しました。

1950年7月20日、大田市街への総攻撃はこうして始まりました。

大田の北方と西北方及び西方から一斉攻撃を開始した人民軍連合部隊は、相互の緊密な協同と巧妙な戦

術をもって包囲した敵軍を猛烈に撃滅掃討し、「常勝師団」を誇る米第24歩兵師団を壊滅して師団長ディーンを捕らえ、おびただしい傀儡軍を掃討しました。

正午に大田は完全に解放されました。

大田解放作戦は、多様な戦闘形式を組み合わせて敵の大集団を一挙に包囲掃滅した現代包囲戦のモデルでした。

大田解放作戦の勝利を通して、アメリカ帝国主義の「強大さ」の神話は木っ端微塵になりました。

64. 月尾島防御戦闘はどんな戦いですか？

月尾島防御戦闘は、朝鮮人民軍区分隊が米軍の大規模な仁川上陸作戦を粉砕するために、月尾島で行った英雄的な防御戦闘です。

戦いは、1950年９月13日から15日まで続けられました。

敵は仁川上陸作戦に５万余の兵力と数百隻の艦船、およそ1000機の航空機を投入し、これに旧日本軍の残存勢力まで引き入れました。当時、月尾島には１個海岸砲兵中隊(砲４門)と１個歩兵中隊が配備されていました。

月尾島の防衛者たちは３日間の激戦でたぐいなき犠牲的精神と勇猛心を発揮し、最後の一人まで英雄的に戦い、敵駆逐艦３隻を含む各種艦船13隻を撃沈、撃破し、敵の上陸を最大限に遅延させました。こうして、仁川―ソウル地域防御部隊に貴重な時間を提供し、戦争第２段階の戦略的方針の遂行に大きく寄与しました。

65. 敵中第二戦線はどんなものですか？

敵中第二戦線は、世界の戦史に例のない敵中闘争形式で、個々の部隊やゲリラによる遊撃戦とはまったく異なる、敵中に展開された正規軍の第二戦線であり、最高司令部の統一的な作戦指揮のもと、敵中の広大な地域を占めて、人民の解放を進めながら展開された正規軍の作戦です。

敵中第二戦線部隊は、黄海(ファンヘ)道、江原(カンウォン)道、平安(ピョンアン)南道など中部朝鮮の広大な地域を占め、1950年10月中旬から敵中闘争を果敢に展開することで、敵の進攻速度を最大限遅延させ、朝鮮人民軍の反撃に有利な状況をつくり出し、戦争の次の段階における人民軍諸部隊の打撃力を前後から強め、敵占領地域を迅速

に解放することに寄与しました。

66. 長津湖畔戦闘はどんな戦いですか？

長津湖畔戦闘は、長津湖周辺で行動中の朝鮮人民軍連合部隊が米第10軍団の主力部隊を包囲殲滅した戦いです。

1950年11月27日から12月6日まで行われた長津湖畔戦闘で、朝鮮人民軍は長津湖畔一帯数十里の界線で強力な包囲陣を敷き、米第10軍団の主力部隊に対する大殲滅戦を展開しました。

人民軍の猛烈な打撃を受けた敵軍は、長津湖畔と周辺渓谷に累々たる屍をさらし、遺棄された砲、戦車、自動車の残骸が道々を埋めました。

後日、「墓場将軍」のあだ名が付いた米第１海兵師団長スミスは、朝鮮東海岸の興南(フンナム)港から船で脱出する際、「あれ程多くの部下の死体を棄てて指揮官が去るようなことは、175年間の海兵隊史上皆無であった」と慨嘆し、その頃当地を取材したアメリカの従軍記者は、「海兵隊の歴史上初めての退却」と報じました。

金日成主席の指揮のもと、人民軍は反撃戦の開始後いくばくもなく共和国北半部地域に侵攻していた

敵軍を完全に駆逐し、38度線北側の全地域を解放しました。

67. 1211高地戦闘はどんな戦いですか？

1211高地戦闘は、祖国解放戦争第４段階の時、朝鮮人民軍が戦線東部の重要防御地点1211高地を守り抜いた戦いです。

1211高地の防衛者と人民は、膨大な兵力と戦闘技術機材を投入して日に３万～４万発の爆弾と砲弾を投じ、数十回もの攻撃を加える敵の「波状攻撃」を一歩も譲らず撃破して高地を死守し、敵の「夏期及び秋期攻勢」を粉砕しました。

この戦いで1211高地の防衛者たちは、敵兵2万9000余名を殺傷または捕虜にし、敵機40余機を撃墜し、戦車60余台をはじめおびただしい兵器と戦闘技術機材を鹵獲、破壊しました。

敵兵は1211高地の戦いでおぞけをふるい、この高地を見るだけでも気が滅入るとして「傷心嶺」と呼び、高地の下の谷間に入れば生きては帰れないとして、「陥穽谷」と名付けました。

68.　Ｔ字型高地戦闘はどんな戦いですか？

　Ｔ字型高地戦闘は、1953年1月下旬、朝鮮人民軍の一砲兵部隊と歩兵区分隊が米軍の大規模の攻撃作戦を撃破し、高地を死守した戦いです。

　当時、アメリカは「新攻勢」作戦を成功させることで同盟諸国の士気を高め、より多くの兵力を掻き集めるべく、「模範戦闘」という名のＴ字型高地奪還戦を計画し、これにおびただしい兵力と戦闘技術機材を投入しました。彼らは勝利は確定的だとして、国連側記者団と参観団を招きさえしました。

　ところが、それほど綿密に準備した「模範戦闘」は朝鮮人民軍の思いもよらぬ強力な集中砲火と反撃に遭遇して失敗に帰し、「新攻勢」の前奏曲は地の底に吸い込まれてしまいました。

　アメリカ帝国主義侵略者は、Ｔ字型高地奪取作戦が「死傷者200名程度の損失を覚悟したのが、約6000名の死傷者」を出しながらも高地を奪えなかったとし、アメリカの一出版物は「クラークとバンフリートは戦術的に重要な丘を獲得するため、日に30万発の砲弾を打ち込み、最優秀の機械化兵力を投入したが、完全に失敗した」と報じました。

69．351高地攻撃戦闘はどんな戦いですか？

351高地攻撃戦闘は、祖国解放戦争第４段階の最後の時期に断行された戦いです。

朝鮮人民軍は、1953年6月2日夜、奇襲をもって、敵が「ソウルを明け渡すようなことはあっても351高地は手放さない」として、「不落の要塞」「不退の線」と豪語していた351高地をわずか15分間で占領しました。351高地を守る勇士たちは、その後50余日間に及ぶ敵の攻撃をことごとく撃破して高地を立派に守り抜き、敵兵8500名を殺傷する戦果を収めました。

この戦いで、14名の共和国英雄が輩出しました。

351高地攻撃戦闘は、朝鮮人民が進めた祖国解放戦争の有終の美を飾る戦いの一つでした。

朝鮮人民軍の相つぐ強力な打撃を支え切れなくなったアメリカは、1953年7月27日、遂に、降服文書と変わりのない停戦協定にサインせざるをえませんでした。

３年間にわたる祖国解放戦争は、こうして朝鮮人民の偉大な勝利をもって幕を閉じました。

70．祖国解放戦争勝利の要因と意義は何ですか？

祖国解放戦争勝利の要因は、百戦百勝の鋼鉄の総

帥であり、卓越した軍事戦略家である金日成主席のすぐれた指導と、朝鮮の軍隊と人民の強力な祖国防衛精神、不屈の闘争精神にあります。

その歴史的意義は第一に、史上初めてアメリカ帝国主義を打ち破り、祖国の自主独立と尊厳、栄誉を世界に誇示したことにあります。第二に、アメリカ帝国主義の「強大さ」の神話を木っ端微塵にし、下り坂を歩ませる端緒を開いたことにあります。第三に、帝国主義連合勢力に打ち勝ったことで、世界の反帝・自主偉業を大いに励ましたことにあります。

71. 祖国解放戦争において朝鮮人民軍はどんな戦果をあげたのですか？

３年間の祖国解放戦争で朝鮮人民軍は、米軍40万5490余名を含む156万7120余名の兵員を殺傷または捕虜にし、1万2220余機の敵機を撃墜、撃破、鹵獲し、564隻の各種艦船を撃沈、撃破、鹵獲し、3250余台の戦車および装甲車、1万3350余台の自動車、7690余門の各種砲、92万5150余挺の各種狙撃兵器をはじめ膨大な量の戦闘技術機材と軍需物資を鹵獲または破壊しました。これは、アメリカが太平洋戦争

４年間にこうむった損失のほぼ2.3倍に相当するものでした。

アメリカの『US ニュース・アンド・ワールド・リポート』は、朝鮮戦争における損失は、アメリカが５度の大戦すなわち独立戦争、1812年戦争、メキシコ戦争、米西戦争及びフィリピン戦争で受けた損失を合わせたものの２倍以上であると報じました。

72．祖国解放戦争の中で編み出された主な戦法はどんなものですか？

祖国解放戦争の中で朝鮮人民軍の勇士たちは、金日成主席によって編み出された独創的な戦法を駆使して赫々たる戦果をあげました。

その代表的な戦法は、坑道戦、飛行機狩り組運動、戦車狩り組運動、狙撃手組活動、独立重機組活動などです。

73．坑道戦はどんな戦法ですか？

坑道戦は、地下に坑道を設け、それらと結ばれた塹壕、連絡壕、トーチカなどの野戦陣地との組み合わせによる防御陣地を構築し、これに依拠して敵を

撃滅する戦闘方式です。
　坑道戦は、近代兵器による打撃から兵員と兵器、戦闘技術機材を安全に守り、敵に対する攻撃と反突撃、襲撃戦など種々の戦闘行動を準備し、進めることを可能にして、防御の固さと攻撃の積極性を一つに組み合わせた有力な戦法です。
　坑道戦がいかに大きな力を発揮したかについては、当時の米第８軍司令官バンフリートが、「第２次世界大戦の時、最も強力な防御線だとされたフランスのマジノ線やドイツのジークフリート線よりも、250㎞の朝鮮戦線に構築された共産軍の坑道による防御線の方がいっそう堅固であろう」と述べています。

74．飛行機狩り組運動はどんな戦法ですか？

　飛行機狩り組運動は、狙撃兵器をもって敵機を撃墜する戦闘行動のことです。
　飛行機狩り組はそれぞれの実情に即して、歩兵銃、軽機関銃、重機関銃、対戦車銃などで武装し、至る所で敵機を撃墜しました。
　西海岸で防御任務を遂行したある連合部隊は、1952

年の１年間に106機の敵機を撃墜して、米軍の「空中での優勢」と「空中戦略」を粉砕し、戦争の勝利に大きく寄与しました。

75．戦車狩り組運動はどんな戦法ですか？

戦車狩り組運動は、山岳地帯の特性と敵戦車の弱点を利用して繰り広げた戦車破壊活動のことです。

戦車狩り組は、防御線に展開された敵戦車だけでなく、厳しい警戒網をくぐって敵中深くまで進入し、多くの戦車や装甲車を破壊しました。

1951年11月初め、戦線東部で活動したある戦車狩り組は１カ月間に29台の戦車を破壊し、またある戦線軍団では、1952年の１年間に延べ109組の戦車狩り組が組まれて活動しました。

76．独立重機組活動はどんな戦法ですか？

独立重機組活動は、前線の付近に重機関銃組を配して、敵の偵察班や個々の兵員の行動を阻害するために、現われた敵兵を掃討する戦闘行動のことです。

独立重機組活動は、第１梯隊の各歩兵中隊が１～２の独立重機組を組み、重機関銃１挺と数挺の歩兵

銃と自動短銃を携帯して、敵の防御線近辺で秘かに活動することを原則としました。

独立重機組は、敵の偵察班や個々の兵員の行動を制御し、出現する敵兵を掃討することで、彼らを恐怖と不安におののかせ、防御の積極性を確保するうえで大きな役割を果たしました。

77. 祖国解放戦争ではどのような近衛部隊が輩出したのですか？

祖国解放戦争の時、朝鮮では特出した偉勳を立てた13の朝鮮人民軍部隊と連合部隊に近衛称号が授与されました。

代表的な近衛部隊は、ソウル解放作戦と大田解放作戦その他さまざまの戦いで赫々たる戦果をあげた近衛ソウル第３歩兵師団、近衛ソウル金策(キムチェク)第４歩兵師団、近衛ソウル第105戦車師団、近衛第18歩兵連隊、注文津沖海戦でわずか４隻の魚雷艇で敵の重巡洋艦と軽巡洋艦をそれぞれ撃沈、撃破した近衛第２魚雷艇隊、大田解放作戦と多くの空中戦で米空軍のジェット機と果敢に戦い、数十機の敵機を撃墜、撃破した近衛第56追撃機連隊な

どです。

78. 祖国解放戦争ではどのような英雄が輩出したのですか？

祖国解放戦争の時、多くの朝鮮人民軍将兵と人民が、特出した偉勲と戦争の勝利に寄与した功労がたたえられて、朝鮮民主主義人民共和国英雄称号あるいは労働英雄称号を授与されました。

祖国解放戦争の時に輩出した共和国英雄は586名（そのうち２重英雄５名）、労働英雄は20名です。ほかに80万9000余名の軍人と人民が各種の国家受勲に輝きました。

代表的な英雄は、1211高地戦闘で火を吐く敵トーチカの銃眼を胸で塞いで部隊の突撃路を開いた李寿福（リスボク）英雄、左足と両腕に深手を負い身体の自由が利かなくなると、あごで重機の射撃ボタンを押し、敵兵を掃射することで高地の死守に貢献した趙君実（チョグンシル）英雄、戦闘中両足と両腕の負傷で身動きができなくなるや、渾身の力をふりしぼって手榴弾を口にくわえ、敵中に転がり降りて爆発させ、壮烈な最期を遂げた姜浩英（カンホヨン）英雄などです。

79．戦後、朝鮮人民軍は社会主義をどのように守ったのですか？

朝鮮戦争で甚大な政治的・軍事的打撃を受けたアメリカ帝国主義は、これに懲りず、戦後も朝鮮の社会主義をなんとか抹殺せんものと、絶え間なく策動しました。

アメリカ帝国主義の反共和国・反社会主義策動が戦争直後から今日に至るまでやむことなく続き、悪辣にエスカレートしていることで、朝鮮半島ではいつ戦争が再発するか分からぬ一触即発の情勢が常時かもしだされ、社会主義建設をめざす朝鮮人民の闘いは、敵の間断のない由々しい挑戦と脅威を受けてきました。

朝鮮人民軍はこれにひるまず、敵の侵略と戦争挑発策動を断固粉砕し、国の自主権と社会主義を揺るぎなく固守しています。

80．「警護艦56」号事件はどんな事件ですか？

「警護艦56」号事件は、1967年1月19日、アメリカ帝国主義の尻押しで新たな戦争挑発策動に狂奔していた南朝鮮傀儡軍の「警護艦56」号が共和国の領海に

不法侵入し、敵対行為を強行中、朝鮮人民軍海岸砲兵区分隊の砲火を浴びて海の藻屑となった事件です。

「警護艦56」号の撃沈は、侵略者が得るものはただ屍と破滅だけであることを示しました。

81.「プエブロ」号事件はどんな事件ですか？

「プエブロ」号事件は、共和国の領海深くに侵入してスパイ行為を働いていた米軍の武装情報収集艦「プエブロ」号が、朝鮮人民軍に拿捕されたことに言いがかりをつけたアメリカ帝国主義侵略者が、朝鮮半島の情勢を戦争の瀬戸際に追い込んだ事件です。

1968年1月23日、海上巡察任務遂行中の朝鮮人民軍海軍の艦艇は、元山（ウォンサン）沖の麗（リョ）島から7.6カイリの水域に侵入してスパイ行為を働いていた「プエブロ」号を拿捕し、乗組員80余名を捕らえました。

「プエブロ」号は米 CIA が送り込んだ武装情報収集艦で、艦内には各種の偵察設備が具備され、そこにあった地図には共和国の軍事基地の位置が表示されており、共和国の領海にたびたび侵入して偵察行為を働いた資料が詳細に記されていました。

「プエブロ」号の拿捕は朝鮮民主主義人民共和国

の正当な自主権の行使でしたが、アメリカは「プエブロ」号が「公海上」で拿捕された、スパイ行為は働いていない、艦と乗組員を返さなければ軍事的報復を加えると騒ぎ立てて共和国の沿海に武力を集中し、情勢を戦争の瀬戸際に追い込みました。

これに対して金日成主席は、朝鮮の軍隊と人民はアメリカ帝国主義者の「報復」には報復で、全面戦争には全面戦争で応えるであろうとし、アメリカ帝国主義者がわれわれの警告にもかかわらず、情勢を激化させ、あくまでも戦争への道を進むならば、今度はいっそう大きな惨敗を喫するであろうことを覚悟すべきだとする、朝鮮労働党と共和国政府の断固たる立場を明らかにしました。

朝鮮人民軍将兵と全人民は、侵略者が襲いかかってくるならば一撃のもとに撃破するとの決意に燃え、万端の戦闘準備を整えました。

朝鮮側の断固とした立場と敵撃滅の勢いになすすべを失ったアメリカは遂に屈服して、「プエブロ」号の行った偵察・敵対行為を厳粛に謝罪するとし、今後いかなる艦船も朝鮮民主主義人民共和国の領海を侵犯しないことを保証するとした文書に署名せざる

をえませんでした。

「プエブロ」号事件を通して朝鮮の軍隊と人民は、朝鮮労働党と領袖のまわりに一致団結した不敗の威力を広く示威し、共和国の自衛的軍事路線の威力を誇示しました。

82.「EC121」事件はどんな事件ですか？

「EC121」事件は、米軍の大型偵察機「EC121」が共和国の領空深く侵入して偵察活動中、朝鮮人民軍飛行隊の攻撃を受けて撃墜されたことで起きた事件です。

アメリカ帝国主義侵略者は「プエブロ」号事件の教訓を忘れて、挑発的な軍事演習騒ぎをやむことなく起こす一方、南朝鮮で自国の侵略兵力と傀儡軍兵力の増強を続け、各種の新型兵器と作戦物資を大々的に搬入していましたが、1969年4月15日には「EC121」大型偵察機を朝鮮の領空に侵入させました。

「EC121」は、偵察活動中、朝鮮人民軍飛行隊により高空で一撃のもとに撃墜されました。

朝鮮が自国の領空を侵した大型偵察機を撃墜したのは、国際法に完全にかなった自衛的な措置であり、

侵略者に対する当然の懲罰でした。

83. 板門店事件はどんな事件ですか？

板門店（パンムンジョム）事件は、アメリカ帝国主義が板門店共同警備区域内で、共和国に対する侵略戦争の口実を設ける目的のもとに引き起こした計画的な挑発事件で、「8・18事件」とも称されています。

1970年代に入り対共和国侵略策動をいっそう強化していたアメリカ帝国主義は、1976年8月18日、軍事境界線上の板門店共同警備区域内で板門店事件を引き起こしました。

この日、斧を持った14名の敵兵が、双方の申し合わせなしに一方的に処理することが許されていない板門店共同警備区域内の木を勝手に切り倒そうとする挑発行為を働きました。こうして双方の間で激闘が始まりました。

この事件は、アメリカ帝国主義者が朝鮮で戦争を起こす目的で計画したものでした。

事件が発生すると、アメリカのフォード政府は南朝鮮駐留米軍全兵力に戦闘態勢に入るよう命じ、近代的軍事装備と兵力の大々的増強に乗り出し、「報復措置」

を講じると朝鮮人民を威嚇しました。

朝鮮半島には直ちに戦争が起こりかねない危機一髪の事態が起こりました。

これに対して、朝鮮労働党と領袖のまわりに一致団結した朝鮮の軍隊と人民は、敵の侵略行為を撃破する戦いに勇躍立ち上がりました。片手には銃を、片手には鎌とハンマーを持って国防力を一段と固める一方、社会主義建設を力強く推し進めることで、祖国の安全と革命の獲得物を揺るぎなく守り抜きました。

84．1990年代初めの朝米核対決はどんな対決ですか？

1990年代初めの朝米核対決は、共和国のありもしない「核問題」をもって繰り広げられた、朝鮮とアメリカ主導の帝国主義連合勢力間の対決です。

ソ連と東欧社会主義諸国の崩壊を奇貨として「社会主義の終焉」を喧伝し、攻撃の矛先を社会主義朝鮮に集中していたアメリカ帝国主義は、1993年、「核開発疑惑」という口実を設けて国際原子力機関の追随勢力を使嗾し、共和国の「特別査察」を持ち出さ

せました。彼らはその時限まで定め、これに応じなければ軍事攻撃と先制打撃も排除しないとして、侵略的な戦争計画を公言してはばかりませんでした。これと時を同じくして、米軍と南朝鮮傀儡軍の「チーム・スピリット93」合同軍事演習が再開され、核爆弾を搭載した新型戦闘機や軍艦など各種の核打撃手段と20万の侵略兵力が朝鮮半島と周辺水域に展開されました。

朝鮮半島には、いつ核戦争が勃発するとも知れぬ一触即発の情勢がかもしだされました。

こうした時、朝鮮では全国、全人民、全軍に準戦時状態を宣言する朝鮮人民軍最高司令官の命令が下され（1993.3.8.）、ひきつづき核拡散防止条約から脱退するとの朝鮮民主主義人民共和国政府の声明が発表（1993.3.12.）されました。

これは、侵略者、挑発者には常に超強硬をもって断固対応する朝鮮の軍隊と人民の胆力と気骨がどんなものであるかを全世界に告げる爆弾宣言でした。

朝鮮の軍隊と人民の容赦なき連続的な超強硬対応打撃に度肝を抜かれたアメリカ帝国主義と追随勢力

は「チーム・スピリット93」を予定の期日以前に中止し、国際原子力機関も「特別査察」を放棄せざるをえませんでした。

85. 米軍ヘリ撃墜事件はどんな事件ですか？

米軍ヘリ撃墜事件は、1994年12月17日、朝米会談の幕裏で共和国に対する敵対行為を続けていたアメリカ帝国主義者がヘリコプターを共和国の領空に侵入させ、朝鮮人民軍の自衛的措置により一撃のもとに撃墜された事件です。

この事件は、誰であれ自国の領土、領海、領空を侵犯すれば絶対に容赦しないとの朝鮮の宣言が決して空言でないことを実地に示したものであり、会談の幕裏で戦争挑発策動を強行している侵略者に与えた断固たる懲罰でした。

このことでアメリカは大統領特使を送って共和国政府に公式に謝罪し、今後このような事件の再発を防ぐ措置を講ずるとの了解覚書に署名しました。

86. 西海海上事件はどんな事件ですか？

西海海上事件は、アメリカ帝国主義の使嗾で、南

朝鮮傀儡海軍の艦艇が共和国西海の海上境界線を侵し、朝鮮人民軍海軍の警備艇に挑発をかけた末、こっぴどく叩かれた事件です。

1999年6月から始まった３度の西海海上戦闘で、朝鮮人民軍海軍により、多くの敵兵と艦艇が海の藻屑となりました。

この戦いは、朝鮮人民軍の正々堂々たる自衛的措置であり、侵略者に対する当然の懲罰でした。

87．延坪島砲撃戦はどんな事件ですか？

延坪（ヨンピョン）島砲撃戦は、朝鮮西海にある延坪島の南朝鮮傀儡軍の砲兵部隊が「海上射撃訓練」の名目で共和国の領海に砲弾を撃ち込んだ末、強力な対応射撃の洗礼を受けた事件です。

2010年11月23日、アメリカ帝国主義者の差し金で、南朝鮮傀儡軍の砲兵部隊は、この日の午後、共和国の領海に向けて連続的に砲弾を撃ち込む挑発行為を行いました。

再三の警告にもかかわらず、共和国の領海にやみくもに砲弾を撃ち込む敵陣地に向けて、朝鮮人民軍の地上砲兵部隊は強力な多連装ロケット砲を一斉

に発射し、延坪島をたちまちのうちに火の海と化しました。

88．朝鮮の核実験はどのように進められたのですか？

朝鮮は、アメリカのエスカレートする核戦争挑発行為に対処して核抑止力を保有し、３度にわたる地下核実験と初の水爆実験を断行しました。

アメリカは、1950年代の中頃から朝鮮停戦協定を乱暴に踏みにじり、南朝鮮に1000余の核兵器を搬入し、毎年南朝鮮傀儡軍と合同して核戦争演習を強行しています。しかも彼らは、朝鮮戦争当時からたびたび核戦争計画を秘かに作成し、朝鮮を核先制打撃対象に含めて公表するなど、核の脅威をエスカレートさせてきました。

これに対処して朝鮮は、2005年2月、自衛のために核兵器を製造したことを公表し、核抑止力をさらに強化すべく、2006年10月と2009年5月、2013年2月に３度にわたって地下核実験を断行し、2016年1月には初の水爆実験を断行しました。

朝鮮は地下核実験を通して、自国が堂々たる核保

有国であり、誰も朝鮮に手出しできないであろうことを全世界にはっきりと示しました。

89. 超精密化した戦術誘導弾の試射はどのように行われたのですか？

2014年6月末、朝鮮の国防科学技術者と軍需部門の労働者たちは、金正恩委員長の発意と指導のもとに開発された、独自の方式の超精密化なった強力な戦術誘導兵器システムの試射を行いました。

試射により、戦術誘導兵器の科学技術的性能が一分一厘の狂いもないことが確認されました。朝鮮人民軍は、その掌中にある短距離及び中・長距離誘導兵器をはじめすべての打撃手段を世界的なレベルで超精密化しうるカギを握り、打撃の命中度と威力を最大限に高める展望を開きました。

朝鮮に対するアメリカ帝国主義と南朝鮮傀儡一味をはじめとする追随勢力の孤立圧殺策動、侵略戦争挑発行為が極度に達している時に行われた戦術誘導兵器の試射は、朝鮮の自衛的国防力を強化するうえで達成された歴史的な快勝であり、朝鮮の軍隊と人民に大きな力と勇気を与えました。

90. 核の兵器化はどのように進められているのですか？

朝鮮の科学者、技術者は、各種の戦術・戦略弾道ロケットの戦闘部に核爆弾を装着するうえで大きな成果を収めました。

2016年3月、金正恩委員長は現地で、核の兵器化で収めた成果についてつぶさに聞き取りました。

そして、核科学者、技術者は朝鮮労働党の並進路線を高く掲げ、国防力を強化し自衛的抑止力を磐石のごとく打ち固めるための国防科学研究事業において大きな成果を収めた、朝鮮式の混合装薬構造として、熱核反応が瞬時に起こる合理的な構造に設計、製作された核弾頭は大したものだ、核爆弾を軽量化し弾道ロケットに合わせて標準化、規格化を実現したが、これが真の核抑止力である、朝鮮人が決心すれば不可能なことはない、と満足の意を表しました。

今朝鮮では、核施設を高い水準で正常に運営して必要な核物質を生産しており、核技術を絶えず発展させて、より強力で精密化、小型化された核兵器とその運搬手段をより多く製造しているだけでなく、すでに実

戦配備した核打撃手段も絶えず更新しています。

91. 戦略軍の弾道ロケット発射訓練はどのように行われたのですか？

2016年3月、朝鮮半島に核戦争勃発の危機が生じた最悪の情勢下で、朝鮮人民軍戦略軍の実戦能力判定のための機動を組み合わせた弾道ロケット発射訓練が行われました。

金正恩委員長がこの訓練を見ました。

朝鮮人民軍戦略軍司令官が指揮する戦略軍西部前線の打撃部隊は、最高司令部の不意の機動命令に従って発射区域へ迅速に移動して、常時動員準備態勢と高い機動能力を誇示しました。

戦略軍司令官の発射の号令一下、雷鳴のような爆音を轟かせながら弾道ロケットが大地を揺るがせて飛び立ちました。

弾道ロケット発射訓練は、外国の侵略兵力が投入される敵地の港を打撃することを仮想し、目標地域の設定された高度で核戦闘部を爆発させる方法で行われました。

実戦さながらの弾道ロケット発射訓練を通して、

朝鮮人民軍戦略軍西部前線の打撃部隊の戦闘力が余すところなく誇示され、朝鮮の軍事的対応方式がどんなものであるかをはっきりと示しました。

92. 長距離砲兵隊集中火力打撃演習はどのように行われたのですか？

2016年3月、朝鮮では青瓦台とソウル市内の反動統治機関を撃滅するための朝鮮人民軍前線大連合部隊の史上最大規模の長距離砲兵隊集中火力打撃演習が行われました。

朝鮮の最高首脳部を狙って「精密打撃訓練」を公然と行った南朝鮮傀儡一味の本拠地であるソウル市を火の海にするためのこの演習の目的は、朝鮮の軍隊と人民の燃えるような報復の念を示し、アメリカ帝国主義と傀儡逆賊一味に最も惨めな滅亡をもたらそうとする朝鮮人民軍の威力を今一度満天下に誇示することにありました。

演習には、前線大連合部隊の最精鋭砲兵部隊が装備したチュチェ砲をはじめ、各種口径の百数十門の長距離砲が参加しました。

金正恩委員長は野戦監視所で打撃演習計画につ

いての報告を受け、演習開始の命令を下しました。
その瞬間、天地を揺るがす砲声とともに、空を切って飛ぶ砲弾が青瓦台とソウル市内の傀儡反動統治機関を仮想した目標を集中的に打撃し、「敵」の巣窟は火のるつぼと化しました。

93．戦略潜水艦の弾道弾水中試験発射はどのように行われたのですか？

2015年5月、朝鮮では金正恩委員長の臨席のもと、戦略潜水艦の弾道弾水中試験発射が行われました。
この日、戦略潜水艦は陸地から遠く離れた海上で、弾道弾発射深度まで潜水し、そこから弾道弾を発射しました。しばらくして、海面から飛び出た弾道弾が、激しい火炎を吹きながら空高く飛翔しました。
試験発射を通して、艦内騒音準位、発射反動力、弾道弾の水面出水速度、姿勢角など、戦略潜水艦による弾道弾の水中発射が、最新の軍事科学技術の要求を完全に満たすものであることが検証、確認されました。
朝鮮は2016年4月、金正恩委員長の指導のもとに行われた戦略潜水艦の弾道弾水中試験発射で再び

大成功を収めました。

最大発射深度における弾道弾冷発射システムの安定性と、新たに開発された大出力固体発動機を利用した弾道弾の垂直飛行体制における飛行動力学的特性、階段熱分離の信頼性、設定された高度における戦闘部核起爆装置の動作の正確性を実証する目的で行われたこの試験発射を通して、朝鮮式の水中発射システムの信頼性が完全に実証され、主体的な水中攻撃作戦実現のための要求条件を十分に満たしました。

朝鮮は、戦略潜水艦の弾道弾水中発射技術の完成により、先軍朝鮮の自主権と尊厳を侵そうとする敵対勢力を任意の水域で打撃、掃滅しうる世界的レベルの戦略兵器を保有し、思いのままに水中作戦を行えるようになりました。

94. 朝鮮人民軍武装装備館はどんな所ですか？

2012年4月に開館した朝鮮人民軍武装装備館は、朝鮮の武装力を不敗の強兵に作り上げるために、生涯をかけて大きな労苦と心血を注いだ金日成主席と金正日総書記、金正恩委員長の業績が集大成さ

れた、朝鮮の国防力の威力を示す所です。

朝鮮人民軍武装装備館には、朝鮮の軍需工場で生産した、狙撃兵器から各種の砲と戦車、装甲車、艦艇と飛行機、戦略ロケットに至る数千点の兵器及び戦闘技術機材が展示されています。

95．朝鮮人民軍の閲兵式はどんなものですか？

朝鮮では、反日人民遊撃隊による最初の閲兵式に続き、重要な契機ごとに朝鮮人民軍をはじめとする武力の閲兵式を盛大に行っています。

多くの軍部隊と将兵、近代的な武力装備が参加して行われる朝鮮人民軍の閲兵式は、大きな政治的・軍事的意義を持つ政治祝典です。

朝鮮人民軍は閲兵式を通して、金日成主席と金正日総書記、金正恩委員長が積み上げた不滅の軍建設指導業績を光り輝かせています。

また、朝鮮人民と世界の進歩的人民に反帝・自主偉業勝利の信念を抱かせ、彼らを力強く励ましています。

また、アメリカをはじめとする帝国主義勢力を不安と恐怖におののかせ、朝鮮の自主権と尊厳を少しでも侵す者は惨敗と死を免れないであろうことを

はっきりと示しています。

96. 朝鮮は世界の反帝・自主偉業にどんな寄与をなしたのですか？

朝鮮は、民族の独立と新しい社会の建設をめざしてたたかう世界各国の軍隊と人民に反帝民族解放戦争の実践的経験を教え、彼らが反帝反米闘争を確信を持って繰り広げるよう、積極的に励ましました。

また、帝国主義の植民地支配を覆し、新しい社会の建設に乗り出した国々に私心のない軍事援助を行い、これらの国が自らの武力を建設するよう支援しました。

それらの国が要請する軍事専門家も誠意を尽くして養成しました。

また、帝国主義者や反動勢力の反政府陰謀策動を粉砕し、国と民族の独立を固めるための諸国人民の戦いも積極的に助けました。

97. 朝鮮は中国革命をどのように支援したのですか？

朝鮮は、中国共産党と人民が1945年9月から1950

年2月まで行った東北部解放戦争と全国の解放に向けた戦いを、政治的、物質的にのみならず軍事的に積極的に支援して、中国の広大な大地に赤旗を翻らせることに寄与しました。

これらの日々、朝鮮のすぐれた軍事・政治幹部たちと25万もの青年が中国の人民解放軍将兵と共に、東北の全地域を解放するための四平解放戦闘、吉林解放戦闘、長春解放戦闘、錦州解放戦闘、瀋陽解放戦闘などの都市攻撃作戦で出色の偉勲を立てました。

朝鮮人部隊は中国人民解放軍の南方進出作戦にも参加し、長江渡河作戦で主要な突撃路を開き、広西省桂林解放戦闘に参加した後、海南島にまで進撃しました。

中国東北部から海南島までの広大な大地で繰り広げられた４～５年間の数百回にわたる大小の戦いの道には、朝鮮の息子、娘たちの貴い血が宿っています。

98. 朝鮮はベトナム人民の革命戦争をどのように支援したのですか？

朝鮮は、1960年代中頃のベトナム戦争当時、ベト

ナム政府の要請があればいついかなる場合でも志願兵を送り、ベトナムの兄弟たちと共に戦う準備が出来ているとの立場を明らかにし、惜しみなく政治的・軍事的及び物質的支援を行いました。

朝鮮はベトナムに強力な工兵部隊を送って坑道工事を助け、空軍部隊も送りました。朝鮮人民軍の戦闘機は、アメリカが「空のライオン」と豪語した「F4」戦闘機をはじめ100余機の敵機を撃墜し、軍事戦略上重要な地域で制空権を握りました。

朝鮮は以上のほかにも、数百万着の軍服を含むおびただしい軍需物資を無償で提供し、戦うベトナムの軍隊と人民を積極的に支援しました。

99. 第４次中近東戦争の時、朝鮮はアラブ諸国をどのように支援したのですか？

1973年3月、朝鮮はエジプト政府の要請に応じて多くの飛行士と軍事専門家をエジプト戦線に送る措置を講じました。

エジプトに派遣された朝鮮の飛行士たちは、エジプト戦線における最も脆弱な地域であった紅海沿岸戦線の防空任務を立派に果たし、戦端が開かれた初

期からたぐいない勇猛心と巧みな空中戦法をもって傲慢に襲いかかる敵機の群れを掃滅しました。

　気を呑まれたアメリカとイスラエルの空軍は、戦争の終わるまで朝鮮の飛行隊が守る紅海沿岸地域には一切現れませんでした。

　一方、朝鮮の軍事顧問団は、側面と後背、正面の打撃を組み合わせた戦術方案を立てて強力な飛行隊を地中海に出動させ、イスラエル軍の背後を奇襲することで、イスラエル軍を守勢に立たせるのに大いに寄与しました。

100. 朝鮮はキューバ革命をどのように支援したのですか？

　1962年10月～11月、アメリカ帝国主義の反キューバ策動によりカリブ海危機が生じた時、キューバ駐在朝鮮大使館員たちは、武器を取ってキューバ人民と共に最後まで戦うという断固たる立場を明らかにして、キューバ兵と同じ軍服に身を固め、アメリカ帝国主義侵略者との決戦に立ち上がりました。朝鮮大使館員たちが銃を手にしてキューバ人民と共に決戦に立ち上がったというニュースに世界の人たちは

感嘆しました。
　それだけではありませんでした。朝鮮はキューバ革命が勝利した直後から大量の武器を惜しみなく提供し、1980年代には、10万挺の武器を無償で援助するなど、キューバ政府の要請には一切躊躇せず、誠意を尽くして支援しました。

朝鮮豆知識(4)
(軍　事)

総編集	金志豪
執　筆	韓秀英
翻　訳	金竜一　金恵玉
レイアウト	方成姫　金錦香
イラスト	金恩正
発行所	外国文出版社
発　行	チュチェ105(2016)年7月

ㄱ-683585

E-mail：flph@star-co.net.kp
http：//www.naenara.com.kp